

文京区アカデミー推進計画策定協議会

第3回 スポーツ振興分科会 次第

日時：平成22年6月28日（月）18:30～20:30

於：文京シビックセンター10階 1001会議室

- 1 開会
- 2 はじめに
- 3 体系づくりに向けた項目（案）の検討
- 4 閉会

《配布資料》

【資料スポーツ振興－第5号】文京区アカデミー推進計画策定協議会

第1回スポーツ振興分科会【作業結果再整理資料】

【資料スポーツ振興－第6号】文京区アカデミー推進計画策定協議会

第2回スポーツ振興分科会【作業結果書き起こし資料】

【資料スポーツ振興－第7号】体系づくりに向けた項目案

【資料スポーツ振興－第8号】分野別計画骨子（案）

文京区アカデミー推進計画策定協議会 第1回スポーツ振興分科会 作業結果

1. 第1回スポーツ振興分科会 開催日

日時：平成22年4月19日

午後18：30～20：30

場所：文京シビックセンター21階 2010会議室

2. 「課題の洗い出し・分野別計画の方向性検討」作業結果

第1回スポーツ振興分科会では、スポーツに関する特徴や課題、課題に対する解決の方向性について、委員の方から意見を頂き、さらに付箋紙と模造紙を使って整理を行いました。

第1回分科会での作業結果を、下記の表【スポーツに関する特徴や課題】と【課題に対する解決の方向性】に整理しました。【特徴や課題】の意見と、【解決の方向性】の意見との対応がなるべくわかりやすいように表を整理しています。

【スポーツに関する特徴や課題 1】

分類見出し		委員意見
活動拠点	不足している	活動する拠がない
		スポーツ複合施設がない
		無料の大きな公園がない
		地域交流館の数が少ない
	充実している	面積の割には屋外・屋内スポーツ施設が充実している
		民間スポーツクラブが多い
活動拠点へのアクセス	不便である	運動施設へのアクセスが悪い
	便利である	各施設の立地 山手線の中という便利さがある 交通の利便性から近隣区でも活動できる
指導者の不足		指導者がいない
		指導者不足
		スポーツ指導員の中高齢者が多い
		新規参入指導員が少ない
		受講者の高齢者が多いので、中高齢指導員でもOK
利用者の固定化		参加者が固定化してきている
		参加者にリピータが多い
		新規加入者が少ない。団体が自然減、縮小化していく
		小さな集団での活動になるため目的外へつながりにくい
		高齢者のスポーツ団体が多い
		公立中学校への部活動のかたより 生徒数の減少

※色のつけてある欄は、区の特徴、良い点と考えられる意見をさしています。

【課題に対する解決の方向性 1】

分類見出し	委員意見
指導者の育成	指導者の育成(出来る人に声をかける)
	区内大学生の指導者としての受入れ
指導者の活動の場の整備	若手指導員が参入する気になる魅力!!
施設の使いやすさ	行いやすい時間帯を設定する
	ピープル号の充実【特徴・課題より移動】

【スポーツに関する特徴や課題 2】

分類見出し		委員意見
活動の選択肢や情報の不足		やりたいスポーツがない
		一緒にやる仲間がいない
		時間がとれない
		気軽に出来ない
		種目が少ない
		情報が無い
スポーツに対する意欲	意欲がある	大学との連携がわからない
	意欲がない	地域活動団体(地区対)ではスポーツ意識は高い スポーツ活動していない人が50%近くいる
障害者がスポーツをする環境が不足		障害者(中途障害者を含む)のスポーツ施設がない
		施設と介助者が不足している
		車椅子利用者のスポーツ施設がない
		障害者のスポーツクラブが本区では育てにくい
		障害者のスポーツ活動は主として北区の施設を利用している
		障害者のスポーツの介助者の要請が必要
		障害者のための校庭開放の指導員が多い
		肢体不自由校がなく卒業者がいない
		知的障害、肢体不自由者の特別支援学校がない(筑波大付属を除く)
		障害児の教育は北区が中心で行っている
	パラリンピックの選手の養成のための施設は今後どうするのか	

【課題に対する解決の方向性 2】

分類見出し		委員意見
情報発信		情報発信の手段を工夫する
		広報手法の見直し。年代よりの使い分け
相談窓口		現在のスポーツ施設活動等に関するPRの充実
		気軽に相談できる窓口をつくる
参加促進		スポーツ人口を増加させるための手段を強化 中学生・高校生への各スポーツへの参加促進
ウォーキングの進め		ウォーキングの進め
		歩育
		生活習慣病対策として 高齢者対策として
障害者のスポーツ振興		障害者実態をつかんで今後10年でどう取り組むか考える【特徴・課題より移動】
		障害児のために環境の整備が必要【特徴・課題より移動】
		障害者スポーツの拠点をつくる
		障害者スポーツクラブを創設する。(例 サッカー)
		障害者スポーツの指導者、介助者を育成する。
		大学の先生から障害者スポーツの指導者の育成をお願いする 筑波大特別支援学校の協力を仰ぐ。 障害者の親の組織に働きかけたい
他団体・機関との連携		大学生(大学)とのコラボレーションの活性化
		区内大学サークルへの協力要請
		部活動の夏合宿を大学施設で
		北区との連携を図る。運動場、プールの利用
		東京都、全国のスポーツ組織に加入する 各地区、各団体の問題点を共有化する

以上

文京区アカデミー推進計画策定協議会 第2回スポーツ振興分科会 作業結果

1. 第2回スポーツ振興分科会 開催日

日時：平成22年5月17日（月）

午後18：30～20：30

場所：文京シビックセンター21階 2101会議室

2. 「課題の洗い出し・分野別計画の方向性検討」作業結果

第2回スポーツ振興分科会では、文京区のスポーツ振興交流に関する特徴や課題について、第1回スポーツ振興分科会での作業結果をもとに、さらなる検討をしていただきました。

また、課題に対する解決の方向性について委員の方から意見を頂き、付箋紙と模造紙を使って整理を行いました。

文京区のスポーツ振興に関わる特徴・課題、これからの方向性

分類見出し	委員意見
競技力の向上	活動拠点 競技力向上という視点では施設なし
	高校、大学の活用があれば解決可能
	国体出場、学校での活動、オリンピック
	学校体育が主→区大会、都大会、全国大会へ
	普及と強化
	区民大会から一人でも多く、都大会に出すなど
	メディア・マスコミの支援
	パラリンピックの選手育成(はっきりした目標)
観るスポーツ	観るスポーツ サッカー協会・巨人軍の協力あり→活用
	地方の修学旅行生を受け入れている(東京ドーム)→区民チケットも
	直に観る機会を増やす
	自分達が(スポーツを)やっているところをメディアでみせる
	ワールドカップやオリンピックの時には区役所でTVを設けて応援したことがある。(企画物)
	様々な機会をとらえて企画する
	以前は学校でスポーツを観に行ったが、今は行事としてはやらなくなっている
	まちあるきしながら、子どもや大学での練習を観るのも楽しい
	東京ドームに子どもを呼んだり、交流できるように行政からも働きかけて欲しい
ケーブルTVで地元の試合を放映するのはどうか(メディアの活用)	
障害者のスポーツ	軽度でないと受け入れられない
	ボランティアか保護者が見つかる必要がある(重度の人)
	障害者(身体・知的) 車いすスポーツ(身体)、北区、国立市に拠点あり(知的)、アクセス難しい
	北区には特別支援学校があるが文京区にはない。拠点が必要(指導者育成も)
	国は相談窓口を作って欲しい
	区外の施設との連携→窓口を作り、活用を図る
	拠点が無い。指導者が交流できる場所がない
	区内に専用施設を作るのは難しい。他区と協力して対応して欲しい
	音羽の福祉センターの建替え構想があるが、その中ででの位置づけを確認する(事務局より)

分類見出し	委員意見
ウォーキング	<p>ウォーキングは主に高齢者を対象にしている</p> <p>家に閉じこもっている人を外に連れ出すこともある</p> <p>ウォーキング 高齢化が進んでいる。若い人が減っている。集団を探している人がいる</p> <p>団体で歩いていると参加したいと声をかけられる</p> <p>参加者の数の競い合いをしている</p>
スポーツ交流広場	<p>種類を問わなければ、場所は区内で充実している</p> <p>学校によってやっているスポーツが違うので、離れた学校に行かなくてはならない</p> <p>小学校は中学校に付随している。中学校は地域ごとにバラけている。大体まんべんなく配置されている。</p> <p>スポーツ交流広場 種目の限定、新しい人を取り込む</p> <p>区報・ホームページでお知らせしている</p>
メンバーの固定化	<p>特に団体競技はメンバーが固定している</p> <p>メンバーが固定しているので参加しにくいと思う</p>
施設へのアクセス	<p>車を止める場所がない</p> <p>交通手段 地下鉄、バス、自動車、徒歩</p> <p>文京区は坂が多い</p>
指導者の質	<p>高齢者を対象とした指導者の育成</p> <p>スポーツをやっていた人にあらためて指導者になってもらう</p> <p>指導者がいて教える形になっているが、いつもいるメンバーもいる</p> <p>利用者の拡大のためには指導者の質向上が必要(新しい人を受け入れるような意識向上)</p> <p>指導者の交流会をしている</p> <p>指導者の指導、管理をもう少し行政でした方がよい マネジメント</p>
情報の窓口	<p>色々な情報やイベントが一括で分かりやすくあるといい</p>

分類見出し	委員意見
ジュニアの育成	体育協会での取組み
	子どものスポーツ サッカー、野球が主
	ジュニアは親と一緒にないと集まらない
	ジュニア育成(スポーツ少年団構想あり)親と一緒にの集まりでないと
	ボウリング(小・中・高 来ない)非行という意識あり
	種目によって参加者数が違っている
	育成するだけではなく、強くなるという実績もいるのではないか
	空手や柔道に通っている子はいるようだ
	私立や国立が抜けている
	ミニバスケは指導者が不足しており、学校によってできなくなる子もいる
	小学校は学区があるが、中学校は選択制
	やりたい部活のある学校に行かなくてはならない。部活が成立しない学校もある
	半数が私立受験
	学校ごとに部活の特徴を出してはどうか
	出生数は増加(→子どもの増加)への早めの準備を(指導者育成を)
	教育委員との連携、学校とのつながりも薄くなっている
学校全体と社会体育のつながりが薄くなっているようだ	
早めにジュニアから継続できる、親子でできる環境づくり	
世代別のスポーツ	
高齢者	他区よりスポーツはしている
働いている世代	ターゲット 家庭を持っている人 区で働いている人
	仕事に忙しい人がスポーツに参加するために
	妻や子どもを参加させることにより、夫の参加も図る
	スポーツ交流広場では夜の会は働いている人向け 20:30 から 21:00 まで
	日曜日、夜間(19時、20時から)
	休日に他地域に車などで出かけて活動する
	住んでいる所の近くに活動できる場所をつくる
	大人と子ども別々に場所、指導者が必要→一緒にできないか
	子どもを送ってきた大人が参加できる方法はどうか
	PTA で運動を始めた人が継続してできるような環境を整える必要がある
	忙しいので子どもだけのスキー、キャンプが人気ある(親子向けは人気がない)
卓球は継続でやる人が多い。その次はバスケットボール バレーはママさんバレーが根強いがお父さんバレーも出てきた	
子育て世代	子どもは増えているが、クラブを作るほどではない
	昼間に活動できる指導者がいない
	子ども、家庭、指導者不足、働いている人 夜 主婦 昼間 サークル対応なし

以上

体系づくりに向けた項目（案）

(体系づくりの視点) ※体系には不掲載	分野別の目標	基本的な方向
スポーツをするきっかけを持つ	スポーツへの参加促進	スポーツに関する情報の発信 情報窓口の設置
スポーツをする	スポーツを楽しむ環境づくり	既存施設の活用 多様なニーズに対応するプログラムの提供 スポーツを通じた健康づくり 競技力の向上 スポーツを通じた地域交流の活性化
スポーツを観る	スポーツ観戦の魅力向上	プロスポーツ団体との連携 スポーツ観戦の機会の拡充
スポーツを教える	スポーツ人材の育成	スポーツ人材の確保 指導者の質の向上

分野別計画骨子（案）

I スポーツ振興

1 スポーツへの参加促進

【現状と課題】 調査結果や分科会での意見、現況整理データ等から課題をまとめる（10行～12行程度）。

◆ 現状

◎ 現況整理より

- ・ 区では、区民の健康・体力づくりを支援するため、一般の区民や高齢者や障害者（児）をそれぞれ対象として、健康診査や、健康づくりのための講習会を実施しています。
- ・ 青少年から高齢者までの幅広い年齢層の健康・体力づくりを推進するため、各種スポーツやレクリエーションに参加する機会を提供しています。

◎ 調査結果より

- ・ 調査結果をみると、スポーツを日頃「している」と回答した区民は 48.9%、一方、「していない」は 50.4%となっています。
- ・ スポーツをしている人の頻度は、「週に2～3日程度」33.1%が最も高く、「週に1日程度」31.7%、「ほぼ毎日」18.6%となっており、合わせて『週に1日以上』が 80.0%以上を占めています。
- ・ 性／年齢別にみると、スポーツを日頃「している」は男性 30～40 歳代、女性 30 歳代と 60 歳代、「していない」は男性 50 歳代、女性 20 歳代と 40 歳代で高くなっています。
- ・ ライフスタイル別にみると、スポーツを日頃「している」は現実的・こだわり志向タイプ、伝統・調和重視タイプ、前向き・活動志向タイプが 6～7 割台、「していない」は穏やか・興味重視志向タイプ、無関心タイプが 8 割台という特徴がみえます。

◎ 分科会での委員意見より

- ・ スポーツに関する活動の選択肢や情報が不足しているという意見がありました。
- ・ やりたいスポーツがない、一緒にやる仲間がないのでスポーツをしていない人がいるという意見がありました。
- ・ 中学生・高校生への各スポーツへの参加促進が求められるという意見がありました。

◎現状のまとめ

- ・ 区では健康づくりを目的とした講習会や、様々な年齢の区民を対象としたスポーツ活動の機会等を提供していますが、日頃スポーツをしていない人がスポーツを始めるためには、スポーツ活動に関する情報を届けることが求められます。

◆ 課題

- ① 現在実施されている様々なスポーツ活動について、さらなる情報発信が必要です。
- ② 区内にある様々なスポーツ活動や利用できる施設等の情報を、分かりやすく一元化することが必要です。

【基本的な方向】 文京区様の方針や分科会等での意見等から基本的な方向性をまとめる(3行～5行程度)。

(1) スポーツに関する情報の発信

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 情報発信の手段のさらなる工夫、広報手法の見直し、年代によつての使い分けが必要という指摘がありました。
- ・ 現在のスポーツ活動等に関する PR の充実が求められるという意見がありました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

(2) 情報窓口の設置

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 気軽に相談できる窓口を作る必要があるという意見がありました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

2 スポーツを楽しむ環境づくり

【現状と課題】 調査結果や分科会での意見、現況整理データ等から課題をまとめる（10行～12行程度）。

◆ 現状

◎ 現況整理より

- 区では、身近な地域にスポーツクラブを育成するとともに、クラブハウスを整備し、区民主導の管理の実施を目指しています。従来のスポーツ開放は直営方式から運営委員会方式への以降により行政主導型から脱却し、地域スポーツクラブへの足がかりとします。
- 青少年から高齢者までの幅広い年齢層の健康・体力づくりを推進するため、各種スポーツやレクリエーションに参加する機会を提供しています。
- 区では、地域・生涯スポーツの普及・発展のため、自主的なスポーツ活動を行うスポーツ団体の育成を図っています。

◎ 調査結果より

- 現在行っている（今後行ってみたい）スポーツを、今後より豊かに行うための場所は、「区立の体育館（スポーツセンターなど）」44.3%が最も高く、次いで、「民間のスポーツ施設」39.1%、「近くの公園」24.0%、「区立小・中学校の校庭や体育館」22.3%などとなっています。
- スポーツに取り組むための条件は、「スポーツ施設の利用料金が安くなる」32.4%が最も高く、次いで、「スポーツ施設の増加」28.1%、「仕事・家事・育児の時間の短縮」26.8%、「スポーツ施設の利用方法が簡単になる」24.7%などが上位となっています。
- スポーツをする頻度について、職業別で見たときに特徴的なものとして、「ほぼ毎日」は自営業、無職、「週に2～3日程度」は会社員（パートタイム）、教員・公務員・団体職員、専業主婦、「週に1日程度」は会社員（フルタイム）、専業主婦、「月に1～3日程度」は会社員（フルタイム）、学生がそれぞれ高くなっている。
- 子どもの有無別で見たときに特徴的なものとして、「ほぼ毎日」は高校卒業以上、「週に2～3日程度」は中高生、「週に1日程度」は乳幼児、小学生、「月に1～3日程度」は乳幼児がそれぞれ高くなっています。
- スポーツをしている主な理由は、「健康維持・体力向上のため」79.0%が最も高く、次いで、「運動不足解消のため」58.0%、「ストレス解消や気晴らしのため」41.4%、「友人や仲間との交流のため」23.4%、「美容やダイエットのため」20.7%などとなっています。
- 行っているスポーツは、「ウォーキング」37.6%が最も高く、次いで「体操・ラジオ体操・ヨガ」27.2%、「ジョギング」20.1%、「ゴルフ」17.2%、「水泳・水中ウォーキング」16.6%、「ウエイトトレーニング」13.3%などとなっています。
- スポーツをしていない主な理由をみると、「仕事・家事・育児で忙しいから」45.7%が最も高く、次いで、「きかっけがないから」25.0%となっています。
- 今後したいスポーツは、「ウォーキング」38.8%が最も高く、次いで、「水泳・水中ウォーキング」30.8%、「体操・ラジオ体操・ヨガ」29.2%、「ゴルフ」16.6%、「ダンス」13.7%、「ジョギング」12.9%などとなっています。

- ・ スポーツを行いやすい時間帯は、「土日祝日日中（9時～18時）」が50.2%で最も高く、次いで、「平日日中（9時～18時）」34.7%となっています。

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 区内にはスポーツが気軽できるような、無料で利用できる大きな公園がない、スポーツ複合施設がないという意見がありました。
- ・ 運動施設へのアクセスが悪いという意見がありました。
- ・ 障害者（中途障害者を含む）のスポーツ施設がなく、障害者がスポーツをする環境が不足しているという指摘がありました。

◎現状のまとめ

- ・ スポーツをするために、区立の体育館など公共の施設を利用したいと考える区民が多いという調査結果が出ています。さらに利用料金を下げたり、施設数を増やして欲しいという結果もあり、既存の施設の使いやすさを高めていくことが求められます。
- ・ 生活形態や家族構成等、体力や障害の有無により、スポーツができる条件が異なります。多くの区民がスポーツを楽しめるようにするためには、多様なニーズにきめ細かく対応し、様々な機会を提供していくことが求められます。

◆ 課題

- ① 既存のスポーツ施設の使いやすさを高めるとともに、スポーツ交流広場など身近な場所での活動を活性化し、スポーツができる場所として活用してもらうことが必要です。
- ② 子ども、日中勤務している人、妊産婦、高齢者、障害者など、ライフステージや、ライフスタイル、体力等の違いにより、スポーツを楽しむためには様々な支援や配慮が求められます。そのため、全ての区民がスポーツを楽しめる環境をつくるためには、対象者のニーズに応えた、多様なプログラムを提供していくことが必要です。
- ③ 区民の健康づくりに役立つようなスポーツ活動の支援が必要です。
- ④ スポーツを楽しむことに加え、必要とする人には、競技力の向上を支える仕組みが必要です。
- ⑤ 既存のスポーツ団体の活動を活性化するために、関係団体との連携強化が必要です。

【基本的な方向】 文京区様の方針や分科会等での意見等から基本的な方向性をまとめる(3行～5行程度)

(1) 既存施設の活用

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 区には、スポーツができる公園や施設などが少ないという意見がある一方、面積の割には屋外・屋内スポーツ施設が充実しているという意見がありました。また民間スポーツクラブが多いという指摘もありました。
- ・ 身近なスポーツ施設として、小学校のスポーツ開校が充実しているという意見があ

りました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

●●●●

(2) 多様なニーズに対応するプログラムの提供

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 仕事に忙しい人がスポーツに参加するためには、妻や子どもを参加させることにより、夫の参加も図るなどの工夫がいるという意見がありました。
- ・ スポーツ交流広場では、働いている人向けに、夜の会(20:30から21:00まで)を実施しているという意見がありました。
- ・ スポーツ活動を気軽に始めるためには、住んでいる所の近くに活動できる場所をつくる必要があるという意見がありました。
- ・ 区内で子どもが増えているが、ジュニア育成のためには、ジュニアの指導ができる指導者育成など、早めの対応が求められるという意見がありました。
- ・ 一方、区内で子どもは増えているが、クラブを作れるほどの数は確保できていないという意見がありました。
- ・ 区立中学校は選択制であり、また半数以上が私立中学校を受験するため、子どもの数が少なく、また種目によって参加者数に差があり、部活が成立しない学校もあるという指摘がありました。
- ・ 区立中学校の生徒は、やりたい部活のある学校に行かなくてはならないという指摘がありました。
- ・ ジュニアからスポーツを継続できる、親子でできる環境づくりが求められるという意見がありました。
- ・ 子どもがスポーツを行うためには、親が送迎をする必要があり、親と一緒に集まることができないという指摘がありました。
- ・ 一方、親は忙しいので子どもだけのスキー、キャンプが人気ある、一方親子が一緒に参加する親子向けは人気がないという指摘がありました。
- ・ 大人と子どもでは、別々の場所や指導者が必要だという意見がありました。
- ・ PTAで運動を始めた人が継続してできるような環境を整える必要があるという意見がありました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

●●●●

(3) スポーツを通じた健康づくり

◎ 分科会での委員意見より

- ・ ウォーキングは主に高齢者を対象にしており、家に閉じこもっている高齢者が外に出られる機会になっているという意見がありました。

- ・ ウォーキング活動で、団体に歩いていると参加したいと声をかけられることがあり、ウォーキングをしたいので、活動する機会を探している高齢者が多いのではないかという意見がありました。
- ・ 区に多い坂や、歴史的な史跡等を活用し、まちを歩いて歴史探訪をしながらウォーキングをすることなどの提案がありました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

(4) 競技力の向上

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 競技力をつけるような訓練は学校体育が主に担っており、区大会から都大会、全国大会に出場するというレベルアップの段階があるという意見がありました。
- ・ 競技力向上という視点では、区内には施設がないが、高校、大学の活用があれば解決可能ではないかという意見がありました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

(5) スポーツを通じた地域交流の活性化

◎ 分科会での委員意見より

- ・ —

※分科会ではスポーツを通じた地域交流については具体的な意見がまだ出ていません。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

3 スポーツ観戦の魅力向上

【現状と課題】 調査結果や分科会での意見、現況整理データ等から課題をまとめる(10行~12行程度)。

◆ 現状

◎ 現況整理より

・

◎ 調査結果より

・ —

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 以前は学校行事の一環としてスポーツを観に行ったが、今はやらなくなっている。行政から区内のプロスポーツ団体に働きかけ、子ども達がプロのスポーツを直に観る機会を増やして欲しいという意見がありました。
- ・ 東京ドームで子どもと選手とが交流できるように行政からも働きかけて欲しいという意見がありました。
- ・ まちあるきをしながら、子ども達の試合や学校での練習風景を観るのも楽しいという意見がありました。

◎ 現況のまとめ

- ・ 区内の資源であるプロスポーツ団体との交流を深め、区民がスポーツ観戦をする機会を増やすことが求められます。
- ・ 地域のスポーツ団体の試合や学校での練習など、身近なスポーツを観て楽しめる仕組みや機会の提供が求められます。

◆ 課題

- ① 区内にはプロスポーツの拠点があり、プロスポーツ団体と区民との交流を深めることで、区民がプロスポーツを身近に観れらたり、スポーツに関心を持ったりする機会を増やすことが必要です。
- ② スポーツを観ることを楽しみ、スポーツに対する関心を高めてもらうために、様々な機会を捉えて、多くの区民がスポーツ観戦を楽しめるような企画を実施することが必要です。

【基本的な方向】 文京区様の方針や分科会等での意見等から基本的な方向性をまとめる(3行~5行程度)。

(1) プロスポーツ団体との連携

◎ 分科会での委員意見より

- ・ サッカー協会や巨人軍との連携で観るスポーツを充実させられるという意見がありました。
- ・ 東京ドームでは、地方からの修学旅行生の受け入れをしており、区民にも気軽に試合を観戦できるようなチケットを設定してもらえないかという意見がありました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

・ ●●●●

(2) スポーツ観戦の機会の拡充

◎ 分科会での委員意見より

- ・ ワールドカップやオリンピックの時に、区役所に大型のテレビモニターを設けて、区出身の選手を区民で応援したことがあり、様々な機会をとらえて、スポーツを観ることを楽しむ企画を立てて欲しいという意見がありました。
- ・ ケーブルテレビでの地域の試合の放映など、メディアとの協働でスポーツ観戦の機会を増やすことはできないかという提案がありました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

4 スポーツ人材の育成

【現状と課題】 調査結果や分科会での意見、現況整理データ等から課題をまとめる(10行~12行程度)。

◆ 現状

◎ 現況整理より

- ・ 区では、地域の生涯スポーツを普及・振興するため、区内の各種スポーツ指導者を育成しています。
- ・ 体育指導員への研修会の実施や委託事業など、活動への支援を実施しています。
- ・ 地域・生涯スポーツ・レクリエーションの普及振興及び区民の自主的スポーツ活動を支援するため、体育指導員活動、スポーツリーダーを活用しています。

◎ 調査結果より

- ・ —

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 新規参入指導員がないという指摘がありました。
- ・ 夜でないと活動できない働いている人や、子育て世代など昼間に活動している人を指導できる指導者が少ないという指摘がありました。
- ・ 高齢者を対象とした指導者の育成が必要だという意見がありました。

◎ 現況のまとめ

- ・ 地域にはスポーツ経験者等の人材がいます。指導者の数を増やすためにも、それらの人材の活用が求められます。
- ・ 地域でのスポーツ活動に新規参加者を呼び込んだり、活動を活性化するためには指導者の質が重要です。指導者の質を高めるため、行政が中心となった取組みが求められます。

◆ 課題

- ① スポーツ経験者の活用や若手指導者の育成を通じて、指導者の数を確保していくことが必要です。
- ② スポーツに取り組む人を増やすために、行政が中心となって指導者の質の確保、向上に取り組むことが必要です。

【基本的な方向】 文京区様の方針や分科会等での意見等から基本的な方向性をまとめる(3行~5行程度)。

(1) スポーツ人材の確保

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 区内大学生の指導者としての受入れや、スポーツをやっていた人にあらためて指導者になってもらう工夫を通じて、人材の確保をする必要があるという意見がありました。
- ・ 区内のスポーツ活動について、若手指導員が参入する気になる魅力を高める必要があるという指摘がありました。

- ・ 大学との連携を通じて、障害者スポーツの指導者や介助者の育成をお願いできないかという意見がありました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

(2) 指導者の質の向上

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 指導者の指導、管理をもう少し行政でした方がよいという指摘がありました。
- ・ スポーツひろばなど、利用者が固定化されがちな状況の中で、新規利用者の拡大のためには、指導者の質向上（新しい人を受け入れるような意識向上）が必要だという意見がありました。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●